

令和5年度三島市まち・ひと・しごと創生推進会議 会議録

1 日時：令和6年3月22日（金）15時00分から17時00分

2 場所：生涯学習センター3階講義室

3 出席者：

（委員）

豊長委員、三宅委員、山田委員、柳川委員、永田委員、加賀谷委員、浪崎委員、岩崎委員、野寺委員、土屋委員、渡邊委員、永倉委員、石橋委員 ※委員16名中13名が出席

（事務局）

豊岡市長、井口副市長、佐野健康推進部長、水口社会福祉部長、飯田企画戦略部長、西川産業文化部長、鈴木教育推進部長、畠政策企画課長、瓜島政策企画課副参事

4 会議の公開・非公開の別：公開

5 傍聴人：0人

6 会議の内容

2 議題

（1）「住むなら三島・総合戦略」の進捗報告について

○No. 14 「災害時地域連携汚物処理事業」について、訓練時期が夏の暑い時期で十分な訓練ができなかったということだが、夏以外の時期に実施して訓練を増やす計画があるかないか。

⇒（企画戦略部長）

No. 14 「災害時地域連携汚物処理事業」について、災害時のトイレは非常に重要な問題。各自主防災会で様々な訓練をしており、トイレの設置を毎回行っているわけではないが、今回の能登半島地震の関係でトイレに関しても様々な報告を受けているため、訓練に取り入れてもらうよう市からも周知していく。訓練時期は様々で夏以外にやっているところもある。

（市長）

仮設トイレは避難所に相当数の備蓄があり、それを設置してもらっている。また、避難所によってはマンホールトイレの整備もある。その他、自宅でも簡易トイレの準備をしてほしい旨の啓発を行っている。

○No. 15 「子育て世代の防災啓発事業」について、満足度は高いが参加人数が減少したということで、実施回数は具体的に何回だったか。

⇒（政策企画課長）

No. 15 「子育て世代の防災啓発事業」について、母親世代に関心を持ってもらうという趣旨で防災講座を託児付きで実施しており、回数は2回。参加者は1回目が8名、2回目が12名。平日の昼間実施しており、参加者は伸び悩んでいるが、防災の離乳食やおむつなど母親目線で説明するため、参加者からの評判は良い。

○No. 49 「ノルディックウォーキング推進事業」について、市内の幼稚園保育園の年長向けに体験会を実施したということだが、推進の目的は幼稚園児の健康推進なのか、大人への

健康推進が目的なのか。

⇒（健康推進部長）

No. 49「ノルディックウォーキング推進事業」について、子どもだけでなく、幅広い世帯に実施していただきたいと考えている。ノルディックウォーキングの普及もかなり進んでいるため、委託から直営に変え、現在はお金をかけずに実施している。子供に関しては市内の年長向けにノルディック歩育として実施している。

○No. 73「食育推進事業」について、食育に関心がある・ある程度関心があると回答した方の割合が76.9%とのことだが、食育は範囲が広い。食文化・栄養のバランス・家族や仲間と一緒に食べるなど食育の分野についてもう少し細かく調査をするとともに数字が上がるのではないかと。今後の調査の改善を求めたい。

⇒（健康推進部長）

No. 73「食育推進事業」について、食育だと聞き方が漠然としているため、もう少し細かく聞いた方が良いと感じた。聞き方を変えると過去との比較が難しくなるが、食育基本計画を策定する際にもう少し細かくアンケートを取らせていただこうと思う。

○総合戦略は人口減少の抑制を目標にしているということで子育て世帯への支援はこれに直結すると考えている。「2数値目標」の「子育て支援サービスの充実度」不満率について厳しい数値と報告されていたが、不満率上昇の理由と「3施策・事業」の「A又はB評価の割合」が高いことのズレが何故起こっているのか。

⇒（社会福祉部長）

「2数値目標」の「子育て支援サービスの充実度」不満率について、基準年度と比較すると倍近く増えたように見えるが、こちらは年に1回実施している市民意識調査の数字を使用しており、令和5年度は5段階評価から4段階評価に変わり、どちらともいえないと回答していた約半数の割合が満足・不満足それぞれに振られたため増えた形となっている。それらを考慮した推計評価では不満率は若干下がるのではないかと考えている。不満率の割合に対し、施策のC評価が少ないのではないかとということだが、コロナ禍でいろいろな実績値が下がり、現在はそれが戻りつつある状況。そのため、実績値が低くても仕方がないとB評価となっているものが多く、互い違いとなっている部分が生じている。

（市長）

市民意識調査は子育てと関係ない世代も回答に加わる。そのため、子育て中の方等、ある程度の年齢幅で実施すると違う結果となると思うので、そこも留意する必要がある。

三島市の子育て支援策は県内でもトップクラス。すくすくガイドは三島市の子育て施策が一括してわかるようにするために作成したガイドで、一覧表になっている。子供が増えることは重要で、少子化対策をしっかりとやるため、市独自でも少子化突破制度を作る必要があると考えており、皆様の忌憚のない意見をいただきたい。

○産前から産後までのワンストップのサポートを実施していただきたい。産前産後は身重でなかなか声をあげられないため、もう少し声を吸い上げたり、利用者目線で利用しやすい制度に改善していただきたい。

⇒（健康推進部長）

子ども家庭センターを設置し、運営を開始しているがネウボラを目指して妊産婦一人一人に寄り添った支援をしていく。子ども家庭センターを発展させ、より良いセンターにするためにも忌憚のない意見を今後ともいただきたい。

（社会福祉部長）

すくすくガイドは令和4年度の11月に作成、令和5年度は学生とコラボしスマホでも見られるようにした。令和6年度は6月に発行を予定しているが、使いやすくなるように工夫させていただく。

○最近、若者の移住者が増えてきている。giwaのゲストハウスの方は東京から三島市が好きになって移住をしてきており、そこでいろんなイベントを実施している。そういうところから三島市は潜在的な価値がある街だと感じている。

最近には車に乗らない学生が増えてきているが、三島市は車がないと不便。市で先日行われたスマートバスをもっと推進し、公共交通の便をもっと頑張ってもらいたい。

三島駅南口の再開発にすごく期待している反面、楽寿園以降西側の道路がガタガタのため、整備をしてほしい。

⇒（市長）

三島市の市民意識調査で不満率がいつも高いのは歩道の整備。一度にできないため、順次道路整備を進めており、毎年少しずつ不満率が下がってきている。公共交通については車社会になり、バスに乗る人が少なくなっている。そこで70歳以上の方に助成券を提供し公共交通機関の促進も図っている。一方で自動運転バスが早く実用化できるよう、昨年12月に実証実験を行った。時速35kmで走り、令和6年度はさらに発展した実験をしていくことを考えており、早期実用化できるよう目指していく。

○子育て支援も大切だが、高齢者への支援はどうか。

⇒（市長）

非常に充実している。介護保険制度や介護施設もたくさんもあり、高齢の方が仮に動けなくなるような状態になったとしても三島市ならば安心していただけたらと思う。外出してもらうための足は、これから改善し取り組んでいく。

（健康推進部長）

認知症になっても安心して歩けるまちづくりを目指している。徘徊しても発見できるようなQRコードの配布や怪我・事故が起こった際の賠償保険制度にも取り組んでおり、高齢者の方が安心して歩けるような街づくりを頑張っている。

マックスバリュの協力により、移動販売も開始されたところである。

3 その他（令和6年度当初予算の内容説明等）

※各委員から特に意見等なし

以上